

トロントの北東、静かなリゾ  
ト地として人気のあるハリパー  
ン地域に童話に出てきそうなログ  
ハウス造りのベッド&ブレック  
ファストがある。「B&B 茜(あかね)」  
ね」。経営者は中島ゲリー&美  
恵子夫妻。

オープンしたのは今年8月で、  
今のところは週末のみ営業。来年  
2月から毎日営業する予定である。  
トロント市内スカパーポロに住む  
夫妻は、週日ゲリーさんは高校  
の教師、美恵子さんはもみじヘル  
スケアソサエティーの経理を担当  
している。

しかし、ゲリーさんは来年1  
月末で教師をリタイア、B&Bの  
経営に専念することになっている。

「B&B 茜」は二人にとって、リ  
タイア後の第二の人生の糧であり、  
生きがいでもある。

## 「この地域が気に入って」

中島夫妻は、ムスコカやハリ  
パトーンなど、いわゆるコテージ  
カントリーをよく旅行し、B&B  
にも何度か泊まった。

「いつかこんなところで、リタイ  
アしたらB&Bでもやってみたい  
ね」と、漠然と夢を描いていた。

トロントから車で2時間半から  
3時間くらいと手ごろで、森と湖  
に囲まれ、リラククスできるのが  
なによりも気に入っていた。  
昨年10月、同じ地域のB&Bに  
泊まった。

「とても感じのよいB&Bで、そ  
こが売りに出ているということを知  
りました」

にわかに二人は、夢を現実にし  
ることを考えた。

当時ピッカリングにあった家を  
売り、スカパーポロに小さなコンド  
ミニアムを買った。

「そこは寝るためだけの住まいの  
ようなものです」

残金をB&B資金に充  
てることにしていた。

結果的には売りに出た  
いたB&Bは手に入らな  
かったが、二人はもう  
すっかり「その気」に  
なっていた。

「それからインターネッ  
トなどで売りコテージを  
調べ、3〜4件選んで見  
に行きました。これもそ  
のひとつです。外から見  
ると狭そうですが、中に  
入ると意外と広く、入り  
口近くに、ろうかをはさ

り

# リタイア後のある人生

## コテージカントリーで B&Bを経営する

# 中島ゲリー&美恵子夫妻

〈取材・いろものりこ〉



▲ログ造り「B&B 茜(あかね)」の外観



▲裏庭には毎日のように鹿が訪れる (photo: Gary Nakashima)

月に引越し。週日はトロント、週末  
は「茜」に、という生活パターンが  
始まった。

## 早期リタイア

ここで中島夫妻のかんたんなブ  
ロフィアを紹介しよう。

ゲリーさんはトロント生まれ  
の日系三世。56歳。祖父は広島県出  
身で祖母は熊本県出身。トロント  
大学を卒業後、アフリカのガーナ  
にCUSO (Canadian University  
Service Overseas) から2年間サ  
イエンス教師として派遣された。

トロントにもどってからもずつ  
と高校の生物の教師をしている。

一方、美恵子さんは熊本県生ま  
れの福岡県育ち。その後、両親の仕  
事の都合で東京へ。会計の仕事に  
携わったのち、21年前にカナダへ。  
二人の出会いは、美恵子さんの

妹がカナダ人と結婚したこと  
から始まった。24年前、妹に会うため母  
親と初めてカナダに旅行で来た。  
その翌年、今度は美恵子さん1人  
で再びカナダを訪問。この時、妹さ  
んのご主人の知り合いだったゲ  
リーさんと出会った。その年の暮  
れにゲリーさんが日本まで美恵  
子さんに会いに来て、プロポーズ。  
めでたく結婚。現在、一男一女があ  
り、生後18カ月の孫もいる。

それにしてもリタイアするには  
まだ若い年齢のゲリーさん。

「たとえは65歳になってリタイア  
して、それから新しいことを始め  
るには体力的に大変です。だから  
ちよつと早くリタイアして、人生  
を楽しみながら新しいことに挑戦  
してみるのがです」

ただし、美恵子さんの方は  
「私はまだしばらく会計の仕事  
を続け、週末はB&Bを手伝いま  
す」ということだ。

## 「人との出会いが楽しみ」

ハリパトーンを中心地から車で  
15分くらいの静かな林の中にある  
「B&B 茜」。夕焼けのイメージと  
ピースフル(平和)のイメージから  
つけた名前だそう。

引越してから、B&Bにする  
ために、もともと大工仕事で得意  
なゲリーさんがいろいろ手を入  
れた。もちろん、専門の職人さんに  
頼んだ部分もある。

貸す部屋は2部屋ある。①ルー  
ムA(クイーンサイズベッド、バス



▲朝食に出されるフルーツたっぷりの手作りワッフル。これにヨーグルトやバナナ、フレッドなどがつく



▼リビングルーム



▲吹き抜け天井のダイニング。ここで朝食をいただく



▶メルヘンの世界に出てきそうなルームAタイプクイーンサイズベッドの客室



▶ルームBタイプ(ツインベッド)の客室



▶広いベランダにある大きなジャグジーホットタブ

タブ、トイレ付き)  
1泊98<sup>円</sup>(1人または2人)  
②ルームB(ツインベッド、バスルームはシェア)  
1泊1人65<sup>円</sup>、2人85<sup>円</sup>  
\*いずれもタックスはつかない  
\*基本的にはノーベットのだが、他にお客がいない時はトレーニングされたベットのみ受けることもある  
朝食は、自家製のワッフルにフルーツをたっぷり添えたもの、フレッシュ・オレンジジュース、ヨーグルト、コーヒー(希望で日本茶)、バナナフレッドやコーヒーゼリーなどのデザートなど、ヘルシーなものばかり。  
広いベランダには大きなジャグジーホットタブがある。  
湖のプライベートビーチにはカヌーが置いてあり、いつでも使える。

「来夏は、ペダルボートを用意しようと思っています」  
釣りもでき、レイクトラウトやバスが釣れる。冬にはアイスフィッシングもできるそうだ。  
コテージの裏庭や周囲の森に毎日のように鹿が訪れ、かわいいチップモンク(シマリス)やキツネが現われることもある。  
「8月ごろからインターネットのB&Bウェブに載せたら、ほちほち予約が入りまして…。中にはハリバートンにあるアートスクールの夏季講習に通う生徒が1週間泊まったこともありました」  
中島夫妻がB&Bを始めた理由のひとつに「知らない人との出会いが楽しみ」というのがある。  
今まで滞在した人が書き込んだゲストブックには「本当にララックスできて、よく眠れました。ありがとう」といった感謝のメッセージがいっぱい。  
こんなエピソードもある。

「8月の初め、この辺りに竜巻がありました。1週間も停電になったんです。お客を断ろうと思ったのですが、すでに泊まっていたお客が『かまわない』と言うのでそのまま泊まっていたできました。水は近くの湧き水まで汲みに行くの手伝ってくれました。明かりはろうそく、火力はバーベキューや卓上ガスコンロで補いました」  
ハブニングのおかげでかえってお互い親近感がわいたそうだ。  
「これがひとつの勉強になって、ジネレーター(自家発電機)を備えましたから、こんどは大丈夫です」

ちなみに中島夫妻は下の階のウォークアウト・ベースメントを改装して住んでいる。

\*\*  
新鮮な空気をたっぷり吸って、命の洗濯をするのにピッタリの「B&B黄」。近くにはハイキング用トレイルがいろいろあり、陶芸や絵、木工などアートスタジオも多い。四季折々の自然を楽しめるのもうれしい。

www.bbloghome.com

☎(705) 457・4833

☎(416) 271・3294(英語)

☎(416) 561・5275(日本語)